

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

## 中体連岩瀬地区大会余話(こぼれ話)

### その1 讚(たた)えたい野球部のパフォーマンス

1回戦 須賀川二中の試合が終わった直後、スタンドで応援していたお母さん方から異口同音(いっどうおん)に「よく頑張った」という声が聞かれました。その表情も納得しているように、私(校長)の目には映りました。



2年生の3学期半ばから正式部員となった1名を含む7名では大会に出場できないため、美術部から協力を得て5名の臨時部員を加えて大会に出場しました。彼らの目標は勝利だったのでしょうか？ 三校対抗野球大会と今大会、彼らのプレーを見ていて、私には「彼らは純粋に今できるプレーをしっかりとやろうとしているのだ」と思えてなりません。どんなに劣勢(れっせい)になっても表情を変えずミットめがけて投球を続けるピッチャー

と丁寧(ていねい)に捕球するキャッチャー。エラーをしても下を向くことなく、しっかりと構えて打球に備える野手。打席では、一球一球真剣にボールを見極め、しっかりとバットを振り、胸のすぐ当たりの打球もありました。監督のサインにうなづく表情も勝負を捨てない決意がうかがえました。

私も試合終了のあいさつをしてベンチに戻ってくる姿を見て、「3年間よく頑張ったな。」と清々(すがすが)しい気分になっていました。その人数からして、おそらく美術部の保護者の方も応援に駆けつけてくれたのでしょうか。さらには、すでにお子さんが卒業している方も来てくださっていました。きっと、みんな同じ思いになったのではないのでしょうか？

大会終了後の6月2日、木曜日。放課後ユニフォーム姿の3人が校長室の前を通り過ぎました。顧問もその後を追っていきました。ほどなく元気な掛け声が校長室まで聞こえてきました。こうして2年生3人の野球部の練習が再スタートしました。

### その2 思う存分試合をさせてあげたい、柔道部

まだ試合に出られない本校の1年生1名を除くと、岩瀬地区の女子柔道部員は合計で2名。女子の部の団体戦は開催できません。3年生の阿部選手は、仁井田中のもう一人の女子選手と1回試合を行っただけでした。階級が違うので無差別級での対戦です。事情は、男子も大きく変わるものではありません。本来は5人での団体戦ですが、4人での出場し、最初から黒星1つの状態からの対決です。



私は午前中武道館まで応援に行きました。さすがに武道を学ぶ人の礼儀の良さは群を抜いています。応援に来た保護者の方にも目の前まで行って正座をし、深々とお辞儀をしてお礼を述べます。私に気が付くと同様にあいさつに来て、午後の個人戦のことを告げてくださいましたが、午後までいることはできません。本当に申し訳ない気持ちになり、思う存分試合をさせてあげたいなあと思わず切なくなりました。

県中大会では、思う存分自分の力を試(ため)せるよう、たくさん試合をさせてあげたいと思います。

前号(第6号)でお知らせした大会の成績に、誤りが3か所ありました。お詫びして次のとおり訂正いたします。

- (正) ソフトテニス部 個人戦 男子 ベスト6 黒津悠斗③・熊谷一億③ペア  
 女子第3位 名古屋愛美③・伊丹美杜②ペア  
 (正) 柔道部 個人戦 男子55kg級 第1位 佐藤友弥③

## 夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動 7月16日(土)から7月25日(月)

### 1 スローガン

「カチッとね ベルトが守る その笑顔」

### 2 重点

- (1) 自転車の安全利用の推進 (特に、福島県自転車安全利用五則の周知)
- (2) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (3) 飲酒運転の根絶

これからますます猛暑に向かい、疲労運転や開放感による無謀(むぼう)運転などから、交通事故が多発する時期になります。上記運動期間は、大人も子どももそれぞれに交通安全意識を高める機会にしたいものです。

家庭では、上記「重点」について努めて話題にさせていただき、夕暮れ時の運転手から発見されやすい服装、自転車運転のルールへの遵守(じゅんしゅ)やマナーの向上についてご指導願います。

#### 【福島県自転車安全利用五則】

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 安全ルール、マナーを守る
  - 飲酒運転・二人乗り・並走の禁止
  - 夜間はライトを点灯・反射材着装
  - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
  - 運転中の携帯電話・ヘッドフォン使用・傘さし運転の禁止
- 4 被害軽減のためのヘルメット着用に努める

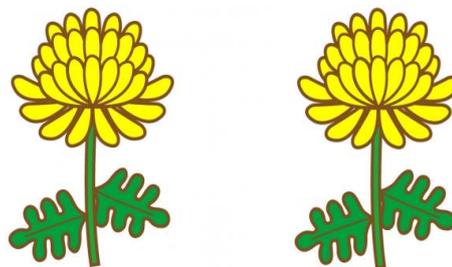
## 私たちがTPTです

### ◆少年非行を少年の力で防ぐ◆

須賀川地区防犯協会連合会のTPTに、地区内の中高生38名が委嘱(いしょく)されました。本校生は、会田 翔くん、古川 蓮(れん)くん、小松龍之介くん、金沢莉紗子(りさこ)さんの4名、いずれも2年生です。



TPTとは、“The Power of Teenagers”の略称で、「警察だけでは少年非行を防止できない。」という発想に立ち、少年非行防止のために同じ世代の若者に一役(ひとやく)買ってもらおうというものです。今後、非行防止キャンペーンや環境美化活動などを行います。須賀川地区の少年非行の未然防止に効果を上げ、しかも、この経験がこの4名の人間的成長につながることを期待しています。街頭で活動しているのを見かけましたら、どうぞ温かい声をかけてあげてください。



## □求む、菊づくりのボランティア□

昨年度、本紙で「学校で菊づくりをやっていただける方」を募集しました。このほど、松が丘町内会長の酒井正勝さんのお計らいで菊づくりの会の大和 了(さとる)さんをご紹介いただき、あと2、3人のご協力があれば実施できる見通しが立ちました。

かつて中学校の技術科の授業には「栽培」の領域があつて、菊の伝統的な栽培方法を学習したのですが、現在は行っていません。栽培に勤(いそ)しむ姿を子どもたちに見せてあげたいと思います。また、子どもの成長には、たくさんの大人とのかかわりが大切だと言われます。子どもたちが会話をできるようになると、目に見えない情意面の力が育つのではないかと期待しています。

また、学校に関わることで、地域の方と地域の方が出会う、触れ合うことができる場所となれば、豊かな地域コミュニティづくりに、学校がお役に立てるのではないかと考えています。菊づくりなどやったことがないという方でも十分なのです。今年から実施できるか否(いな)か、今月下旬には決断しなければなりません。「やってもいいなあ」という方は、ぜひ校長、教頭までご連絡ください。

昨日中体連の県中大会が終了しました。次号を早めに発行してお知らせしたいと思います。